

# Q8

## 津波警報が宮城に拡大するなど、 当初の予想（津波注意報）を上回ったのはなぜ？

気象庁では、地震観測情報から求められた震源の位置と規模を予め準備してある津波予報データベースと照らし合わせ、警報・注意報を発表しています。今回、観測値が予測値を上回ったということは、データベースの作成において、津波発生源となる断層の設定あるいは津波伝播計算方法（またはその両方）に不十分な点があったことを示しています。気象庁は、今回予測を超える高さの津波が観測された要因を分析し、データベースの改善を検討するとしています。

（災害理学研究部門 福島洋准教授）

当初、宮城県に発表されたのは津波注意報でしたが、仙台港で観測された津波が、津波注意報の基準である1mを超えたため、津波警報に切り替えられたと考えられます。津波注意報は、2013年3月に発表の基準が変わり、20センチから1mの津波の高さが予想されるときに気象庁から発表されます。津波警報の切り替えは、東日本大震災でも行われました。当時沖合に設置されたGPS波浪計が観測した津波の情報をもとに、宮城県では6mの大津波警報から、10m以上の大津波警報に更新された例があります。

（災害リスク研究部門 サッパシー・アナワット  
准教授、寄附研究部門 安倍祥助手）